

古河歴史見聞録

三国の鶏の鳴き声

境界の向こう側から

鳥の鳴き声

「弟恋しや」と、時鳥は鳴く。大正7年生まれのKさんは、弟をあやめた兄が、時鳥と化して、その間違いを嘆くばかりに、そのように鳴き続けると語り「兄弟は仲良くしなくっちゃいけないよ」つて結んだ。

鳥の鳴き声に耳を傾けることで、私たちはなんらかのメッセージと、物語を想像してきたようである。市内でも語られているが、鳩が夕方鳴くと翌日は晴れる、あるいは、鶏が夜鳴きをすると不思議があるといったのも、そうした声に明日を占つたもの。

三国をまたぐ鶏の声

さて、古河の近くには、3つの県境が1カ所にあつまる「三県境」という所がある。かつては、それと同様に古河には、下総・下野・武藏の3つの国境があり、名所とされていた。渡良瀬川と思川の合流点がそれで、こうした由来から明治14(1881)年、

ここに架けられた橋に、三国橋と名付けただと/or>いう。

古老人の話によれば、三国橋では「三国の鶏の鳴き声が聞こえるの薬になるといわれた」という。薬っていわれても、もちろん試しちゃいけません。民俗学者の小池淳一氏によれば、鶏は一日・一年の境界でその存在を主張し、人と神との接点を示す、生活世界の境界をめぐる伝承を集約する鳥であるという。そういうのは、3つの国の境、どこからともなく聞こえてくる鶏の声は、きっと川向こうの異世界からに違いない。そんな合流点の境界上を行き来する船の水垢には、病魔を退散させるほど不思議な力が秘められていて考えられていたのでしょうか。

百日咳の流行と鶏の絵馬

ところで、旧古河町の二丁目で提灯に絵を描いていた鈴木忠蔵は、求めに応じては小絵馬も描いていたという。『常武両毛絵馬図集』と題された、彼の作品集を見

ると、人々のさまざまな願いを見ることができる。鶏の絵馬もその一つ。雄鳥・雌鳥を描き、子ども百日咳が流行したときに、軽く済むようにと、これを神仏に奉納したのだという。

コロナ禍以降、患者数が増加傾向にあるという百日咳。古くからけいれん性の発作を起こすものとして恐れられ、鶏の絵馬以外にも、お盆の供物や、亡くなつた人の供物、墓に供えた団子を食べるといふところもある。異なる世界である、あの世との交流可能な供物を力としていたようであ

る。そういうえば、戸口やカマドに鶏の絵を貼るという地域もあり、生活領域の中においても、異世界との境に、病魔を退散させる不思議な力が宿っていると思われていたようだ。

鳥の会話を耳を傾ける

ぼーっとテレビを見ていたら、動物言語の研究をされている人が出演していた。幼少の頃古河に移住し、生き物に強い関心を抱いて暮らしてきたという。インタービューによれば、今ではシジュウカラの会話が少しづつ解明されつつあるという。人類同士でさえ、会話ができないほどコミュニケーション不能の世の中、鳥類の話が分かるなんてウラヤマシイ。わが家の日常会話でも「聞いてんの」と言われて「えっ」と応える。ぼんやりしていたからなのか、それとも年のせいなのかな? それん?、どっちであつても困るそうです。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之



▲酉(『常武両毛絵馬図集』から)



【児童/読み物】
キッズバースアドベンチャー
桐谷直 文

インターネットの中にあるバーチャルリアリティワールド「キッズバース」。子どもたちだけが安全に集えるこのメタバースを開発したのは、ぼくのお父さんだ。キッズバースに隠された宝物を探すため、ぼくの冒険が始まる!

出版社…文研出版



【絵本】
とーんだとんだ
中川ひろたか 文
長谷川義史 絵

とーんだとんだ。なーにがとんだ? ちゅうちょにカラス、ふうせんがとんでくよ。あれ? ぶたやうしまでとんでもつた…! 幼稚園・保育園で人気の伝承遊び「とーんだとんだ」を題材にした絵本。

出版社…Gakken

三和図書館



古河AZUL SOCCER CLUB
(サッカー)



チームデータ

▼活動日
幼稚園キッズ: 週1回、小学生 enjoy: 週2回、小学生team: 1~3年生週3回、4~6年生週4回(曜日・時間は学年で異なる)

▼活動場所
AZUL専用グラウンド(中田1424)

▼問
瀬端一彰
TEL090-3045-4087



【一般/動物学】
和氣あいあい! 上野のパン
ダファミリー物語
神戸万知 写真

2011年に日本にやってきたリーリーとシンシン、その子どもであるシャンシャン、シャオシャオ、レイレイ。上野動物園のパンダファミリーのヒストリーや、普段の様子、顔&性格の特ちょうなどを写真で紹介します。

出版社…技術評論社

【一般/小説】
靈感インテグレーション
新名智 著

SNSの幽霊、瞑想アプリの呪い、サーバー神社のたたり…。ご先祖さまの因業を背負う多々良数季が、サイバー空間を闊歩する怪異に挑む! オカルト×テック×ミステリ。『小説新潮』掲載を加筆修正し、書き下ろしを加え書籍化。

出版社…新潮社

